

都道府県・ 指定都市番号	26	都道府県・ 指定都市名	京都府	研究課題番号・校種名	1 小学校
				教科名	家庭科
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○家庭科の各内容において育成を目指す資質・能力を明確にし、日常生活の課題を解決する力や家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法と学習評価の研究 (イ)内容「B衣食住の生活」における食生活の指導計画(1)～(3)に関する指導方法と学習評価の研究				
ふりがな 学校名 (児童数)	ふくちやましりつしょうわしょうがっこう 福知山市立昭和小学校 (児童数 667人)				
所在地 (電話番号)	福知山市字天田 118 番地 (0773-22-3213)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/syouwa-es/cms				
研究のキーワード	「食生活」の内容における題材の指導計画の作成、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫、評価方法の工夫、家庭・地域との連携				
研究結果のポイント	○ 各題材において、学習のゴールを示したことで、児童一人一人が追究したい課題を設定し、食生活をよりよくしようと工夫する姿が見られるようになった。 ○ 問題解決的な学習過程「昭和スタイル」により、児童が見通しを持って、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。 ○ 自己評価や相互評価、保護者からのコメントを効果的に活用したことにより、児童が実践したことへの達成感を味わうことができ、学習意欲の向上につながった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

自らの生活をよりよくしようと工夫する子の育成
～食生活への意識や実践力を高める家庭科教育～

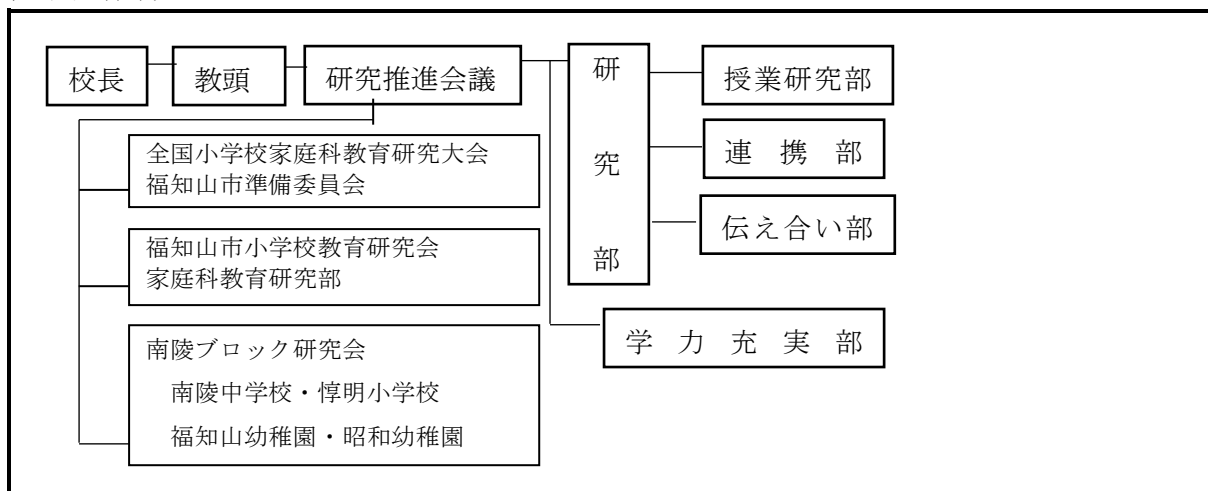
(2) 研究主題設定の理由

本校が実施している児童アンケート調査結果において「家庭科の授業は好きか」の問いには90%以上の児童が肯定的な回答をしている。また、学習課題にも意欲的に取り組み、年間を通して行っている「家族と一緒にやってみよう」という家庭での実践の取組においても、半数以上の児童が保護者からの評価が書かれたワークシートを提出し、自己肯定感を高めている。

しかし一方で、食生活について取りだしてみても、給食を含め課題が見られる。家庭科の授業において、バランスよく食べることの必要性を学んでも、好き嫌いで食べるものを選択することが多かったり、給食の残菜率が高かったり、学んだことを実践することに弱さが見られる。朝食アンケートの結果では、摂取率は高いが、その内容を見ると、食生活への課題意識が低く、食生活の乱れを感じる。その理由としては、授業において実践的な力をつける指導が十分でなかったり、家庭との連携が積極的に図れていなかったりするためだと考える。

そこで、内容「B衣食住の生活」(1)～(3)の食生活において育成する資質・能力を明確にし、食生活の題材の指導計画や指導方法・評価の工夫に取り組むことで、食生活への意識や実践力を高めることにつながるのではないかと考え、「自らの生活をよりよくしようと工夫する子の育成」を本研究主題と設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

令和元年度	○ 研究方針や内容の確認 (4月)
	○ 実態調査の実施と分析 (6月, 10月)
	○ 授業研究会の実施
	6月17日 第5学年「はじめてみよう クッキング」研究授業
	6月17日 第6学年「いためてつくろう 朝食のおかず」研究授業
	10月24日 第5学年「食べて元気に」研究授業
	10月24日 第6学年「くふうしよう おいしい食事」研究授業
	1月29日 第5学年「家族とほっとタイム」研究授業
	1月29日 第6学年「共に生きる生活」研究授業
	1月31日 第6学年「共に生きる生活」研究授業
○ 食生活に関する題材の指導計画の見直し (1～2月)	
○ 研究成果と課題の整理 (2月)	
○ 研究のまとめ (3月)	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①食生活への意識や実践力を高める題材の指導計画の作成
 - ・食生活の内容における資質・能力を明確にした2学年間の題材の指導計画の作成
 - ・他教科等, 第4学年までの学習との関連表の作成
 - ・学習過程を工夫した題材の指導計画の作成

- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫
 - ・問題解決的な学習過程「昭和スタイル」の確立
 - ・「伝え合う活動」を充実させるためのICTや思考ツールの効果的な活用
 - ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、深い学びにつながる学習過程の工夫

③食生活への意識や実践力を高める評価方法の工夫

- ・題材を通して使用するリーフレット（学習カード）の活用
- ・自己評価，相互評価，保護者からの評価など効果的な活用
- ・アンケート調査による実態の把握と研究成果の検証

④家庭・地域との連携

- ・家庭での実践「家族と一緒にやってみよう」の取組の実施
- ・家庭・地域と連携を図った学習課題や場の工夫

（２）具体的な研究活動

①食生活への意識や実践力を高める題材の指導計画の作成

- ・食生活に関する学習内容において，2学年間を見通した題材配列と指導内容を整理した。その際，基礎的・基本的な知識及び技能を繰り返し学習したり，基礎的なものから応用的なものへ，簡単なものから複雑なものへと次第に発展するように学習したりできるよう整理した。
- ・食生活の内容において，関連する他教科等や第4学年までの学習内容について，関連表を作成し，指導に活用した。
- ・題材を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし，学習のゴールを示した。導入では児童がこのゴールを目指して，生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，自分の生活を見つめ直し，一人一人が追究したい課題を設定できるようにした。

②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

- ・「気づく・考える・行動する」の学習過程を「昭和スタイル」とし，課題を解決する学習を進めた。例えば，「気づく」の段階では，児童自身が自分の生活を見つめ直し，問題を発見し課題を設定できるようにした。
- ・ICTや思考ツールを積極的に活用することにより，「伝え合う活動」を充実させた。例えば，家庭での実践を報告する場面において，タブレットを用いて児童の家庭での調理の様子や自己評価・相互評価を瞬時に共有し，その後，意見交換することで，互いの考えを深めることができるようにした。また，材料に適したゆで方を考える際，児童の思考過程を視覚化する思考ツールを活用し，既習の内容をもとに自分が考えた根拠を伝え合い，知識の定着を図るようにした。
- ・題材の終末に，児童一人一人が家庭での実践を計画した。例えば，「いためてつくろう 朝食のおかず」では，「家族に朝食をつくろう」として，学んだことを生かして，健康を考えた家族のための朝食づくりの計画を行った。その際，相互評価により考えを深め，計画を振り返り改善し，実践できるようにした。

③食生活への意識や実践力を高める評価方法の工夫

- ・題材を通してリーフレット（学習カード）を活用することにより，児童が見通しをもって学習に取り組み，家庭での実践後に自己の考えの変容や成長を確かめることができるようにした。
- ・家庭での実践を報告する場面では，自己評価のほかに，友達からの評価コメントや保護者からの実践に対するコメントにより，自分の実践を客観的に見つめ直し，成果と課題を確認できるようにした。
- ・アンケートを定期的実施し，食に関する児童の意識や実践意欲の変容を分析し，教師が指導の振り返りと改善をできるようにした。

④家庭・地域との連携

- ・「家族と一緒にやってみよう」の取組として、毎月の学習内容と関連させた「家庭科B I N G O」や、教科書の内容を参考に取り組みることができる「昭和レシピ」を家庭に紹介し、児童が家族と一緒に家庭での実践に取り組めるようにした。
- ・家庭での実践の回数や内容により、ポイント換算し、プロ認定を受ける仕組みを用い、児童が意欲的に楽しんで家庭実践に取り組めるようにした。

3 研究の成果と課題（○成果 ●課題）

- 各題材において、学習のゴールを示したことにより、児童一人一人が追究したい課題を設定し、食生活をよりよくしようと工夫する姿が見られるようになった。
- 問題解決的な学習過程「昭和スタイル」により、児童が見通しを持って、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- 自己評価や相互評価、保護者からのコメントを効果的に活用したことにより、児童が実践したことへの達成感を味わうことができ、学習意欲の向上につながった。
- 題材の指導計画を見直し、問題解決的な学習過程「昭和スタイル」との関連について検討する必要がある。
- 児童が考えたことを視覚化、共有化することで伝え合う活動が充実し、思考が深まると考える。そのためにICTや思考ツールの効果的な活用方法を研究する必要がある。
- リーフレット（学習カード）を、問題解決的な学習過程「昭和スタイル」の学習の流れと関連させ、児童に学習過程が分かるように改善する必要がある。
- 学校と家庭・地域の連携・協力を進めるために体制を整えるとともに、題材配列等の指導計画を見直す必要がある。

4 今後の取組

- ・問題解決的な学習過程「昭和スタイル」と、題材の指導計画及びリーフレット（学習カード）との関連を図る。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTや思考ツールの効果的な活用について検討する。
- ・資質・能力を育成するための学習評価を適切に位置付けた題材の指導計画の作成を行う。
- ・家庭・地域と連携して取り組む実践の場について検討する。

5 研究協議会の中で協議したいこと

- 生活の中から問題を見いだし、課題を設定するために、どのような工夫や手立てを行っているか。